

## 平成25年度 第5回豊田市商業振興委員会会議録（実名なし）

【日 時】 平成26年1月7日（火） 午後1時00分～4時15分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

加藤 勇夫 [愛知学院大学名誉教授]  
河木 照雄 [豊田商工会議所副会頭]  
浅井 良隆 [コンサルティングオフィス アット・ドリーム]  
澤田 恵美子 [豊田市消費者グループ連絡会会長]  
尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科教授 博士]  
服部 正雄 [トヨタ生活協同組合 特別顧問]  
河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]  
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]

〈事務局〉

小栗 保宏 [豊田市産業部長]  
寺澤 好之 [豊田市産業部副部長]  
早川 正文 [豊田市商業観光課課長]  
長江 洋一 [豊田市商業観光課副主幹]  
鈴木 啓介 [豊田市商業観光課担当長]  
近藤 美由紀 [豊田市産業部商業観光課主査]  
山田 統裕 [豊田市産業部商業観光課主査]  
西川 雄太 [豊田市産業部商業観光課主事]

〈傍聴者〉

なし

【次第】

- 1 部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 審議事項
  - (1) 豊田市商業の課題と市の施策について（協議）
    - 1 補足資料
    - 2 課題及び施策について
    - 3 条例・要綱の改正に向けて
    - 4 今後のスケジュール
- 5 連絡事項
- 6 その他
- 7 閉 会

【会議録（要約）】

- 1 部長あいさつ
  - 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて  
事務局から説明しました。
  - 3 委員長あいさつ  
加藤委員長があいさつをされました。
  - 4 審議事項
- (1) 豊田市商業の課題と市の施策について（協議）
- 1 補足資料
  - 2 課題及び施策について
  - 3 条例・要綱の改正に向けて
  - 4 今後のスケジュール

事務局から資料に基づいて説明を行い、委員から意見をいただきました。

【主な質疑応答】

【補足資料】①商業にかかわる数値の比較 ②高齢化の推移 ③市内の各種食料品小売業の取扱店 ④事例紹介：宅配サービスの現状（民間）⑤商店街の空き店舗調査 ⑥農商工連携・6次産業化推進プログラムについて事務局より説明

委員 経済センサスは5年毎の調査ですか。

事務局 はい、そうです。

事務局 経済センサスに商業統計調査が吸収されたわけではなく、平成29年に経済センサスが行われます。今回は経済センサスと商業統計調査が同じタイミングであったので平成24年度は一本化されましたが、平成26年にまた商業統計調査が行われる予定であります。

委員 次回公表される平成26年と平成19年の年商業統計調査は、比較できるわけですね。  
今回の小売吸引力は「0.81」とさらに下がっていることに対して議論が必要であります。

委員 空き店舗率が全国と比較して豊田市が低いのは何故でしょうか。

事務局 全国の結果は中心市街地に限ったものではないので、中心市街地での比較はできません。中心市街地は従来から施策を打ってきたこと、再開発を行ってきたこと、公共施設も入れてきたこと、現状の中心市街地の人口は他の市町と比較すると増えている傾向にあることが考えられます。鉄道利用者、歩行者通行量も増えています。中活事業の効果だと考えられます。

委員 空き店舗の補助で入った店舗のその後の経営状況はいかがですか。

**事務局** 事業完了後、3年間の経過報告をいただくことを条件としていますので、年度末に集計して皆様にお出しいたします。  
美容院は着付けの大会で賞をいただいたという情報を聞いています。

**委員** 飲食店を見ていてテーブル席の使い方は大事だと思いました。

**委員** 今回、小売吸引力が下がり今後、近隣の大型店の進出により、ますます下がることが予想されますが、このままで良いのでしょうか。

【資料① 課題及び施策について】事務局より説明

**事務局** 本日の審議を終えてから商店街、商工会議所、商工会の団体を対象に意見交換会を行いながら最終事業に落とし込んでいきたいと考えています。  
説明した資料の考え方、整理について委員さんの意見をお願いします。

**委員** 全体についてみなさんの意見をお伺いします。

**委員** 中山間地域の課題は豊田市だけに限ったことではありません。  
商業を通じた地域産業の育成や商業を通じたまちづくりを中心に行っていないと市外への消費の流出は止められないのかなと思います。  
適切な収益をあげ地域貢献ができれば、一般の消費者は理解できると思いますが、商業者が補助金をいただいて収益だけを得ていると印象が違うので、そうではなくてまちづくりに貢献をしているという一般市民に対する啓蒙活動が必要かと思います。  
中心市街地の取組みについては、地域の理解が得られれば、まちづくりは進んで行くと思います。

**委員** 一般の消費者は、商業者が補助金だけでやっているわけではなく、自助努力していることが伝わらなければ理解が得られないです。  
豊田市の駅前が発展しなければ、豊田市の発展は有りえないと考えます。

**委員** 人づくりや繁盛店づくりということよりも、新たな人材を誘致することで新たな事業の方針が取れ展開が期待できると思います。世帯交代の中で新しい人材を入れて行くことができないかなと思います。産業誘致の中に商業を入れることができないかなと思いました。  
商店街の利用が地域としてどのようなことができるか考えていかなければいけないです。もうけてやるぞという意欲と地域での役割を持って取組んでいかなければいけないです。商店街に入れば何でも支援してくれるという考え方は捨てなければいけないです。商店街の中でも徹底して支援していくべき所を考えていかなければいけないです。  
空き店舗の件は、今までは個人の改装費に支援してきました。飲食店に対する支援がほとんどで飲食店は飽和状態であります。商店街に資産を持たせる形に上手に切りかえていくことが必要かと思います。あくまでも個人の問題は、

個人で整理するようにはしなければいけないです。個人へは融資の支援に絞っていくべきかと思います。

今までは、街の中にどんな形でも良いので出させる仕組みで動いてきてある程度の成果は得られたかと思いますが、今後はその後に発生する問題について対応できることを考えなければいけません。商売をすることができる資質を持った人に豊田で商売をすれば得だと人が集まってくるような仕組みが必要です。

委員

空き店舗の家主が、今後、店舗を貸すつもりがあるのか意向調査が必要かと思います。今だどこへ行けば借りれるのか分からない状態であります。そういう仕組みを作ろうとした時に調査が第一歩となります。融資の利子補給などの支援はあっても良いかと思います。

委員

中心市街地以外の商店をどうしていくべきか課題であります。

委員

卸売業を上手く使って地元の商店の流通が図れないかと考えます。商品があるから人が来るわけで、欲しい商品がないから人が来ないわけです。卸売業の裏の機構を上手く使ってお互いに採算が合うような仕組みがとれないか考えます。

委員

人材育成についてリーダーとそのスタッフの養成が必要になるかと思います。

委員

何をねらうのかイメージできるものでなければいけないです。高齢者、独居老人、買い物弱者向けの商業を通じての新サービスを行うとか、そうではなくて若い人を市街地に取り入れて活性化できるようなことを行うとか、地場産業をねらって農商工連携でただ単に物産展のようなことを行うだけではなく、2次産業で上手く加工して販売するなど、そのような仕組みをどのように作っていくのか、何を目玉にこの3年間はどこまで達成させていこうかとした方が良いかと思います。

既得権益を守るために補助金を出していくべきではないと思います。

事務局

地域資源を活かして、成果の分かるような、めりはりを持ってやっていきたいと考えています。

委員

ばらまき政策ではなく、成果の出るところに支援すれば良いかと思います。また、女性の活用も必要かと思います。

委員

商店街は支援を受けるだけではなく、自助努力で自分たちも勉強し地域と連携して取組み、自分たちでできない部分に支援を受けるように考えなければいけないと思いました。

委員

私たちから見ればもっと商品がほしいと思います。衣服や食べるところもあるけれど店に入りにくい雰囲気があります。もっと入りやすいような店の顔だとか色を統一できたら良いかと思います。

地域に密着したコンビニがあると良いかと思います。豊田の農産物や特産物を置いてあるコーナーがあると良いです。

店主は消費者が望んでいる商品を勉強しているのか疑問です。昔からのお店に任せておくだけではなく、新しい風が入ってくるようなシステムができないかと思います。

委員 店というのは入りやすく出やすくなくていけないと思います。

委員 まちづくりというのを、何年か前から勉強させていただいて、自分たちでやるものだと考えています。イベントに行くと、まちづくりや農協の職員がチラシを配っています。商品は自分で努力して売るものだと思います。先に補助金や行政ありきで考えるとおかしなものになってしまいます。やる気のある商業者がでてきてほしいです。その後に補助金を紹介すれば良いかと思います。方向性を打ち出さないと、何をやっているか分からないものになってしまいます。

高齢者と若者が共存できるまちづくりだとか、都市と農山村が共存できると良いです。地場産業が活性化することも重要です。こういったことを明確に打ち出して個々の商店ががんばれるよう支援していくべきだと思います。補助金ばかりに頼ってしまうのは良くないですが、補助金は活用できればとても良い制度だと感じました。稲武では自分たちで商工会中心にあれやりたい、これやりたいと相談するのですが、その後にこんな支援があると聞いて補助金を活用して東京まで視察へ行ったりしました。小さな町の取組みですが、楽しんで取組んでいることが参考となれば良いです。

行政が、まずはこういったことを目指そうとやっていただくのがんばってついて行くのかなと思いました。見える方向性を出していただきたいです。

委員 市長が納得していただく提言書の内容でなければいけないです。

委員 岡崎のまちづくりに携わることがあるが、「三法良し」と言って、売り手、買い手、地域を対象としています。成果が分かりづらいというのは、商業者ばかりを見ているからだだと思います。「三法良し」となる制度が定まると地域住民や消費者も納得できるものとなります。つながるといことがキーワードになるかと思います。

商店街を使用しない理由として価格が高い、品揃えが少ないという意見が多いが、一方でコンビニを考えると便利だから利用するのです。これは欲しいものがあるから利用するわけで、中心市街地の商店に本当に欲しいものがあるかと考えると疑問です。

これからは、買い物の動向調査などしていくべきかと思います。個店については、がんばる個店のような集りで支援していたが、個店強化という切り口で進めて行かないといけないです。

事務局 「条例・要綱の改正に向けて」事務局より説明

資料2-1 各市の条例、資料3 近隣市の支援策（要綱等）

委員 説明を聞いて他の7都市と比較して、豊田市は補助が手厚いということが良く分かりました。

委員  
事務局

他の市町には、他に特異な制度は無いのですか。

豊田市の制度に当てはめたものでありますので、他の市町では、それ以外の制度もあるかと思えます。

豊橋市の「中小企業振興助成制度」は、新しく取得した機械・装置への補助を行っています。工業の分野も含まれています。

事務局

資料4 「まちづくり会社の位置付け」について事務局より説明

委員

これについては、今後、この条例で豊田まちづくりに支援するのか、豊田まちづくりが中活計画の事業を担う事業所として支援していくのか明確にしているか必要があるのかなと思えます。

内閣府の中では中活協をどうして行くのかという話もあります。中活協とその核になっている商工会議所、そしてまちづくり株をどういう仕組みでどういう役割でやっていくのか検討しなければいけないです。

事務局

資料5 「商業政策の変遷」について事務局より説明

事務局

資料6 「今後のスケジュール」について事務局より説明

## 5 連絡事項

## 6 閉会